

科目名	評価実習			担当者	横山暁大・那須宣宏・田村正樹 (全て実務経験者)		必修/選択	必修	
学科	理学療法	学年	3年	履修期 単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
実務経験者の概要	実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる。								
<b>【講義の概要および到達目標】</b>									
概要：基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。									
<b>【授業の方法】</b> 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度									
<b>講義計画（テーマと内容等）</b>									
【実習前】 医療面接試験 オリエンテーション									
【第1週】 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施									
【第2週～第3週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈									
【第4週】 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ									
【実習後】 実習実施報告会での発表  ※実習時間は1日8時間とする。									
成績評価の方法・基準					試験の方法				
実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨床実務実習判定会議で総合的に判定する。					実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					医療面接試験の合格者				
質問に関する連絡先									
■ 本校代表アドレス：info@opu.ac.jp □ その他連絡先【 】									
教科書					参考書				
実習で必要とするすべての専門書					指定なし				
参考文献 オリエンテーション時に配布する。									

科目名	総合実習Ⅱ			担当者	増川武利・鈴木啓子・小島一範 (全て実務経験者)		必修/選択	必修	
学科	理学療法	学年	4年	履修期 単位数	前期8単位	授業形態	実習	時間数	360時間
実務経験者 の概要	実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる。								
<b>【講義の概要および到達目標】</b>									
概要： 実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実際を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技能錬成プログラムと展開力育成プログラムを有機的に組み合わせて運用することにより、職業現場を主導できる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技能錬成プログラムは、理論に裏付けられた深い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一段高い実践力を身につける。また、展開力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を深め、アイデアを創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。 到達目標：①諸種の理学療法評価技術を修得する。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法の全過程を体験し実践する。⑤対象者に必要な理学療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。⑥チーム医療における理学療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑦対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を深め、解決案の提案につなげていくことができる。									
<b>【授業の方法】</b> 理学療法学科40名 実習 プレゼンテーション 1施設1～2名程度									
<b>講義計画(テーマと内容等)</b>									
<b>【実習前】</b> オリエンテーション									
<b>【第1週】</b> 実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施									
<b>【第2週】</b> 臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施									
<b>【第3週～第8週】</b> 臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施									
<b>【第9週】</b> 臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ									
<b>【実習後】</b> 実習実施報告会での発表、 OSCE 内容：理学療法評価(検査・測定)、訓練。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/感覚検査/ROM-ex/筋力増強運動  ※実習時間は1日8時間とする。									
成績評価の方法・基準 実習時間(実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、OSCE、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。					試験の方法 実習時間(各実習の規定時間を満たすこと)、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、OSCE				
授業時間外学修(予習・復習等)  実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					履修上の留意事項  ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間(1単位)行うこととする。				
質問に関する連絡先  ■ 本校代表アドレス：info@opu.ac.jp □ その他連絡先【 】									
教科書  実習で必要とするすべての専門書					参考書  指定なし				
参考文献 オリエンテーション時に配布する									









科目名	総合実習 I			担当者	渡部悠司・十河正樹・野口泰子 (全て実務経験者)			必修/選択	必修
学科	作業療法	学年	3年	履修期 単位数	後期9単位	授業形態	実習	時間数	405時間
実務経験者の概要	実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。								
【講義の概要および到達目標】 概要：基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という作業療法の全過程と関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育て、問題を特定化していく。 到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という作業療法の全過程を修得する。⑤関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。									
【授業の方法】 作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション									
<b>講義計画 (テーマと内容等)</b>									
【実習前】	OSCE 内容：作業療法評価（検査・測定）、訓練。 医療面接/バイタルチェック/形態測定/ROMt/MMT/DTR's/BRST/認知機能検査/ROM-ex/ 更衣動作訓練/整容動作訓練。 オリエンテーション								
【第1週】	実習オリエンテーション 評価計画の立案・確認 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施								
【第2週】	臨床場面の見学・模倣・実施 対象者への評価実施 治療の実施								
【第3週～第8週】	臨床場面の見学・模倣・実施 評価の実施、評価結果の解釈 治療、関連職種との連携を実施								
【第9週】	臨床場面の見学・模倣・実施 治療・関連職種との連携を実施 実施した評価・治療・関連職種との連携についてまとめ								
【実習後】	実習実施報告会での発表  ※実習時間は1日8時間とする。								
成績評価の方法・基準 実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。					試験の方法 実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容				
授業時間外学修（予習・復習等）  実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。					履修上の留意事項 OSCEの合格者 ※総合実習Ⅰ・総合実習Ⅱにおいて訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションに関する実習を45時間（1単位）行うこととする。				
質問に関する連絡先 ■ 本校代表アドレス：info@opu.ac.jp その他連絡先【 】									
教科書  実習で必要とするすべての専門書					参考書  指定なし				
参考文献 オリエンテーション時に配布する。									

科目名	評価実習			担当者	濱畑法生・十河正樹・渡部悠司 (全て実務経験者)			必修/選択	必修
学科	作業療法	学年	3年	履修期 単位数	前期3単位	授業形態	実習	時間数	135時間
実務経験者の概要	実務経験者3名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。								
<b>【講義の概要および到達目標】</b>									
<p>概要：基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。</p> <p>到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。</p>									
<b>【授業の方法】</b>									
作業療法学科40名 実習 プレゼンテーション									
<b>講義計画（テーマと内容等）</b>									
<p><b>【実習前】</b> 医療面接試験 オリエンテーション</p> <p><b>【第1週】</b> 実習オリエンテーション 評価計画の立案 臨床場面の見学・模倣 事例への評価実施</p> <p><b>【第2週～第3週】</b> 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の解釈</p> <p><b>【第4週】</b> 臨床場面の見学・模倣 対象者への評価実施 評価結果の統合・解釈・まとめ</p> <p><b>【実習後】</b> 実習実施報告会での発表</p> <p>※実習時間は1日8時間とする。</p>									
成績評価の方法・基準					試験の方法				
<p>実習時間（実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容、実習に取り組む姿勢、これらを科目担当者が評定し、各実習の臨地実務実習判定会議で総合的に判定する。</p>					<p>実習時間（各実習の規定時間を満たすこと）、実習課題の実施状況、実習実施報告会での発表内容</p>				
授業時間外学修（予習・復習等）					履修上の留意事項				
<p>実習に係る事前準備 プレゼン資料の作成に係る準備を自主的に行う。</p>					医療面接試験の合格者				
質問に関する連絡先									
<p>■ 本校代表アドレス：info@opu.ac.jp</p> <p>□ その他連絡先【   】</p>									
教科書					参考書				
実習で必要とするすべての専門書					特に指定なし				
参考文献									
オリエンテーション時に配布する。									